

I 調査結果の概要

1 平成28年産花きの作付（収穫）面積及び出荷量の動向

作付（収穫）面積は、切り花類が1万4,590ha（対前年産比98%）、球根類が317ha（同87%）、鉢ものの類が1,675ha（同97%）、花壇用苗ものの類が1,450ha（同97%）となった。

出荷量は、切り花類が37億8,100万本（同98%）、球根類が9千540万球（同94%）、鉢ものの類が2億2,650万鉢（同99%）、花壇用苗ものの類が6億4,930万本（同97%）となった。

表1 平成28年産花きの類別作付（収穫）面積及び出荷量（全国）

類別	作付(収穫)面積	出荷量	対前年産比	
			作付(収穫)面積	出荷量
	ha	万本(球・鉢)	%	%
切り花類	14,590	378,100	98	98
球根類	317	9,540	87	94
鉢ものの類	1,675	22,650	97	99
花壇用苗ものの類	1,450	64,930	97	97

注：1 球根類及び鉢ものの類は、収穫面積である。

2 出荷量の単位は、切り花類及び花壇用苗ものの類が万本、球根類が万球、鉢ものの類が万鉢である。

2 類別・品目別の作付（収穫）面積及び出荷量の動向

(1) 切り花類

作付面積は1万4,590haで、前年産に比べ230ha（2%）減少した。

出荷量は37億8,100万本で、前年産に比べ8,600万本（2%）減少した。

都道府県出荷量割合は、愛知県が16%で最も高く、次いで沖縄県が9%となっている。

品目別出荷量割合は、きくが40%、ばら及びカーネーションがそれぞれ7%となっており、この3品目で全体の5割以上を占めている。

図1 切り花類の作付面積及び出荷量の推移

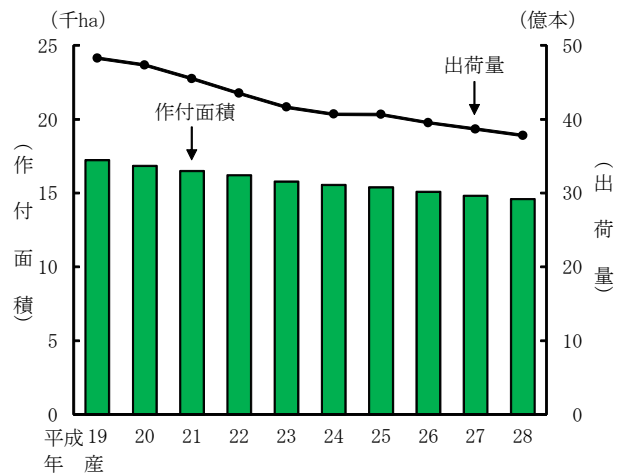


図2 切り花類の都道府県別出荷量割合

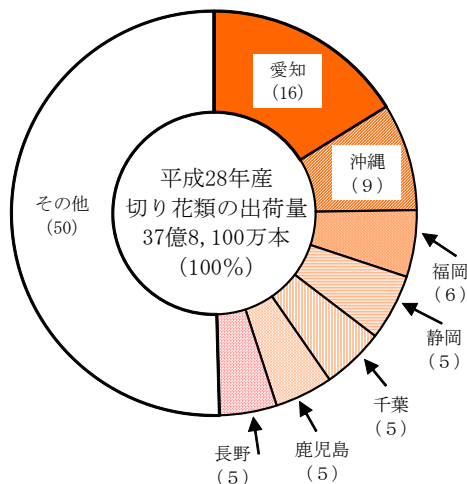


図3 切り花類の品目別出荷量割合

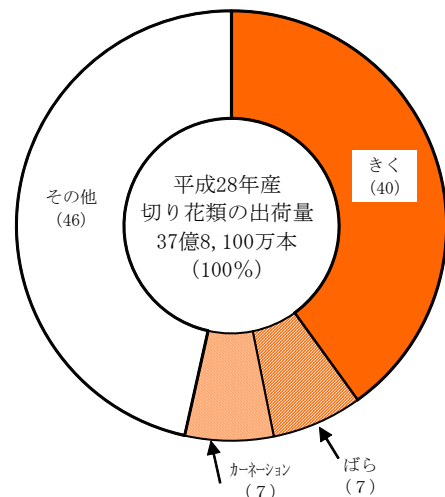


表2 平成28年産切り花類の作付面積及び出荷量（全国）

品 目	作 付 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			作 付 面 積	出 荷 量
	ha	万本	%	%
切 り 花 類	14,590	378,100	98	98
うち き く	4,801	151,400	96	96
うち 輪 ぎ く	2,503	80,980	95	94
ス プ レ イ ぎ く	734	25,360	98	101
小 ぎ く	1,564	45,070	97	96
カ ー ネ ー シ ョ ン	301	25,150	95	93
ば ら	347	25,720	95	95
り ん ど う	434	8,860	102	99
洋 ラ ン 類	130	1,600	96	90
ス タ ー チ ス	185	12,270	97	97
ガ ー ベ ラ	93	16,530	100	101
ト ル コ ギ キ ヨ ウ	437	10,090	101	103
ゆ り	752	13,850	98	99
ア ル ス ト ロ メ リ ア	81	5,520	99	95
切 り 葉	661	13,530	96	102
切 り 枝	3,631	20,730	99	98

注：切り花類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

ア きく

作付面積は4,801haで、前年産に比べ189ha（4%）減少した。これは、高齢化により規模が縮小したこと等による。

出荷量は15億1,400万本で、前年産に比べ6,700万本（4%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が31%で最も高く、次いで沖縄県が18%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図4 きくの作付面積及び出荷量の推移

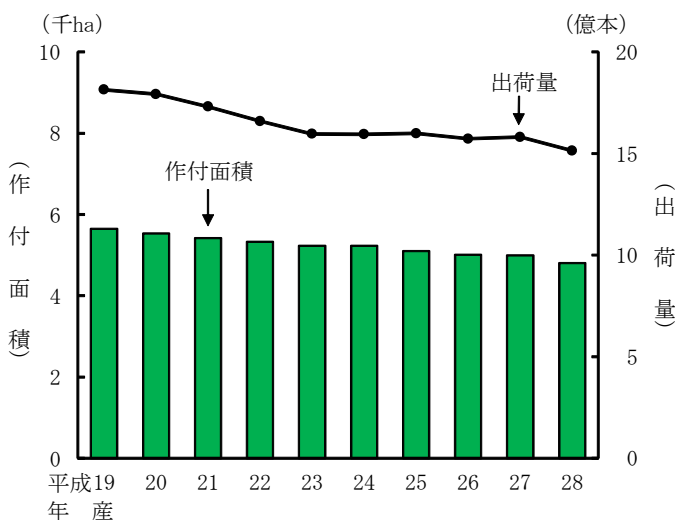
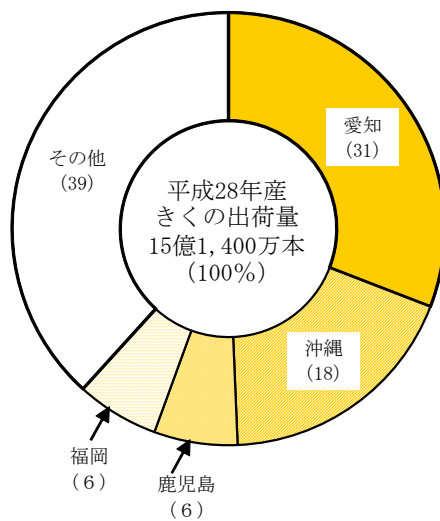


図5 きくの都道府県別出荷量割合



イ カーネーション

作付面積は301haで、前年産に比べ17ha（5%）減少した。これは、高齢化による規模縮小や他作物への転換等による。

出荷量は2億5,150万本で、前年産に比べ1,940万本（7%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が21%で最も高く、次いで愛知県が17%、北海道及び兵庫県がそれぞれ10%となっており、この4道県で全国の約6割を占めている。

図6 カーネーションの作付面積及び出荷量の推移

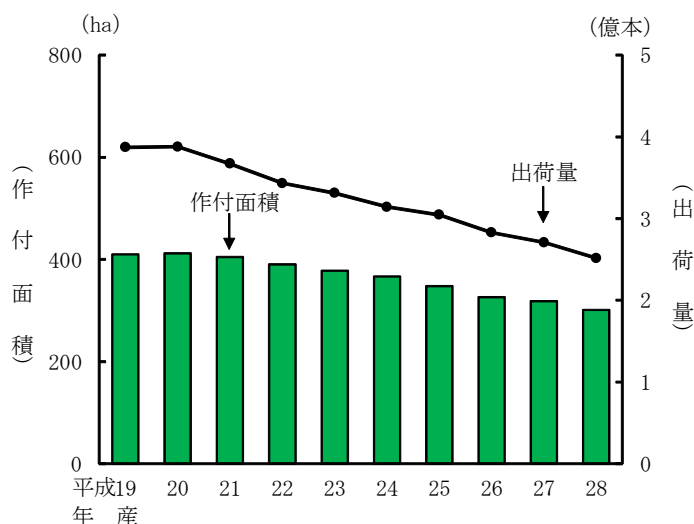
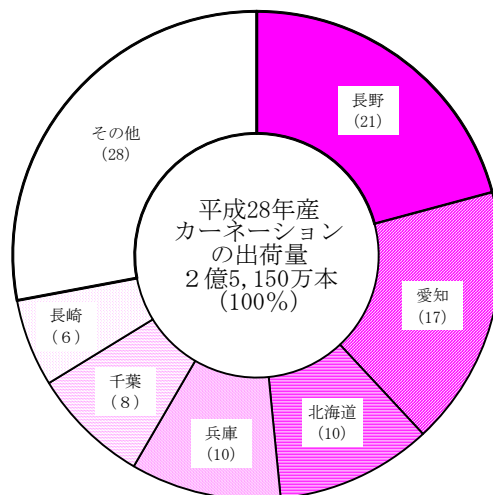


図7 カーネーションの都道府県別出荷量割合



ウ ばら

作付面積は347haで、前年産に比べ18ha（5%）減少した。これは、高齢化により規模が縮小したこと等による。

出荷量は2億5,720万本で、前年産に比べ1,270万本（5%）減少した。これは、作付面積が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が18%で最も高く、次いで静岡県が9%、山形県が7%となっている。

図8 ばらの作付面積及び出荷量の推移

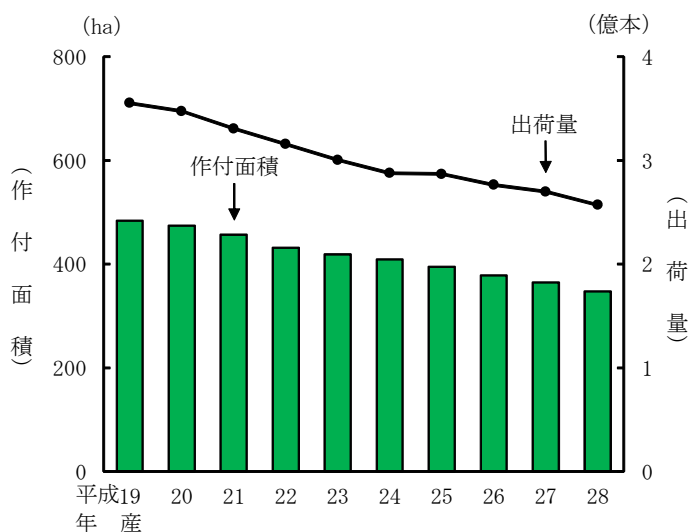
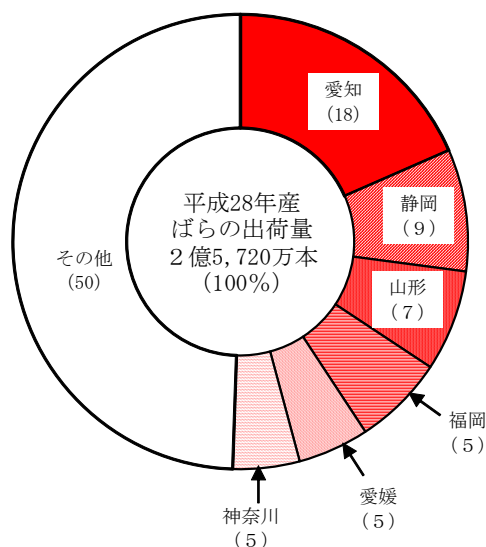


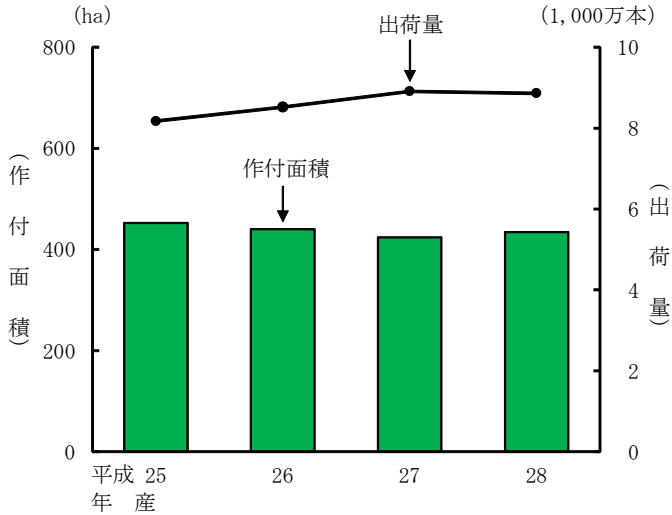
図9 ばらの都道府県別出荷量割合



エ リンどう

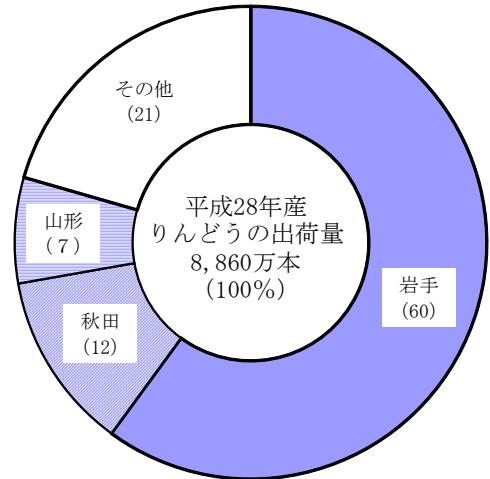
作付面積は434haで、前年産に比べ10ha（2％）増加した。
 出荷量は8,860万本で、前年産に比べ50万本（1％）減少した。
 都道府県別出荷量割合は、岩手県が全国の6割を占めている。

図10 リンどうの作付面積及び出荷量の推移



注：調査対象品目の見直しにより、平成25年産から調査対象品目として調査を実施している。

図11 リンどうの都道府県別出荷量割合



オ 洋ラン類

作付面積は130haで、前年産に比べ6ha（4％）減少した。これは、高齢化による規模縮小や他品目への転換等による。

出荷量は1,600万本で、前年産に比べ180万本（10％）減少した。これは、作付面積が減少したことや夏場の高温により花芽が減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、福岡県が17%で最も高く、次いで徳島県が13%、沖縄県が10%となっている。

図12 洋ラン類の作付面積及び出荷量の推移

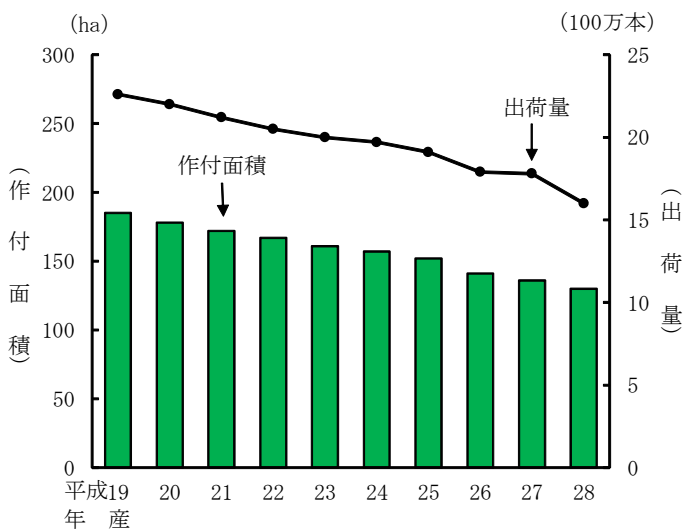
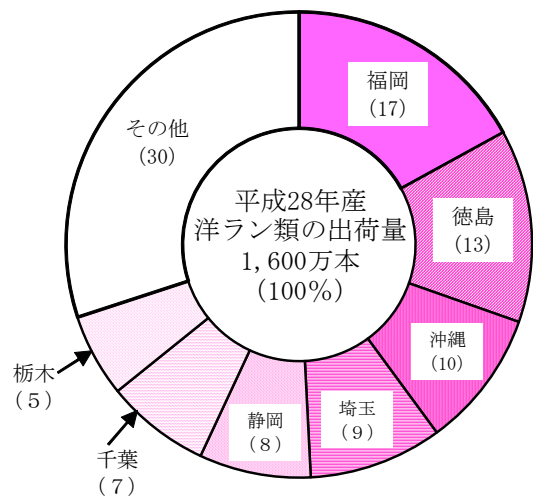


図13 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



カ スターチス

作付面積は185haで、前年産に比べ5 ha（3%）減少した。

出荷量は1億2,270万本で、前年産に比べ360万本（3%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、和歌山県が全国の約5割を占めている。

図14 スターチスの作付面積及び出荷量の推移

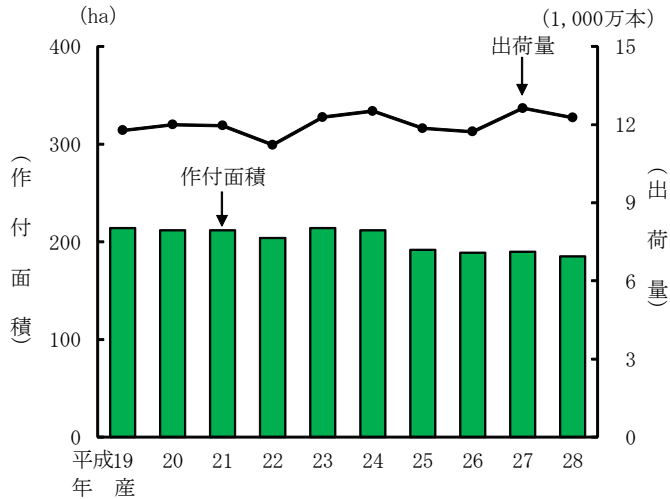
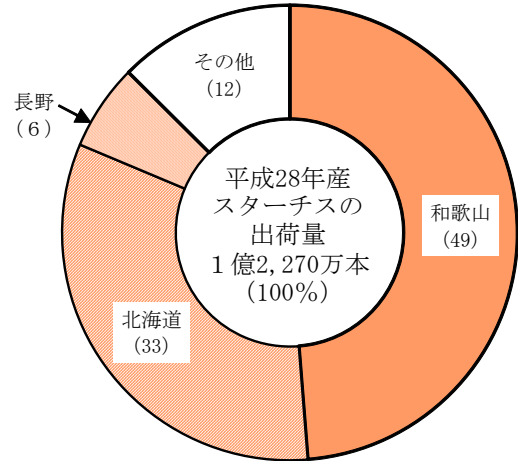


図15 スターチスの都道府県別出荷量割合



キ ガーベラ

作付面積は93haで、前年産並みとなった。

出荷量は1億6,530万本で、前年産に比べ230万本（1%）増加した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が38%で最も高く、次いで福岡県が13%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図16 ガーベラの作付面積及び出荷量の推移

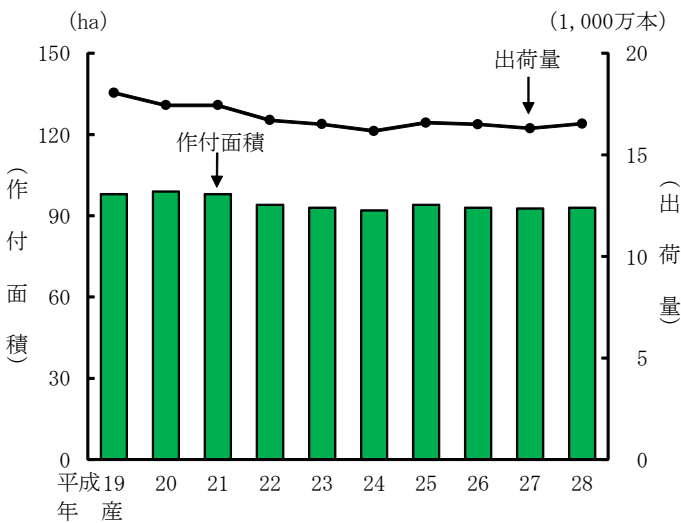
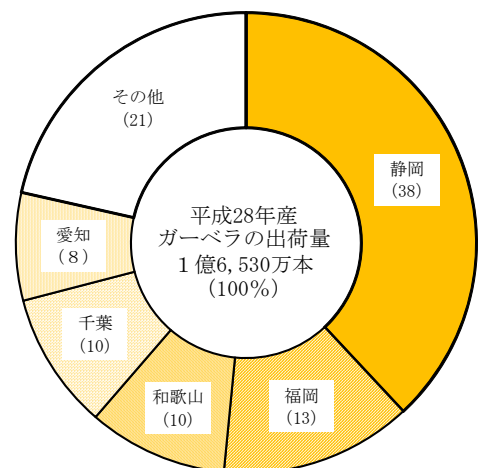


図17 ガーベラの都道府県別出荷量割合



ク トルコギキョウ

作付面積は437haで、前年産に比べ6 ha（1%）増加した。

出荷量は1億90万本で、前年産に比べ280万本（3%）増加した。

都道府県別出荷量割合は、長野県及び熊本県がそれぞれ12%で最も高く、次いで福岡県が9%となっている。

図18 トルコギキョウの作付面積及び出荷量の推移

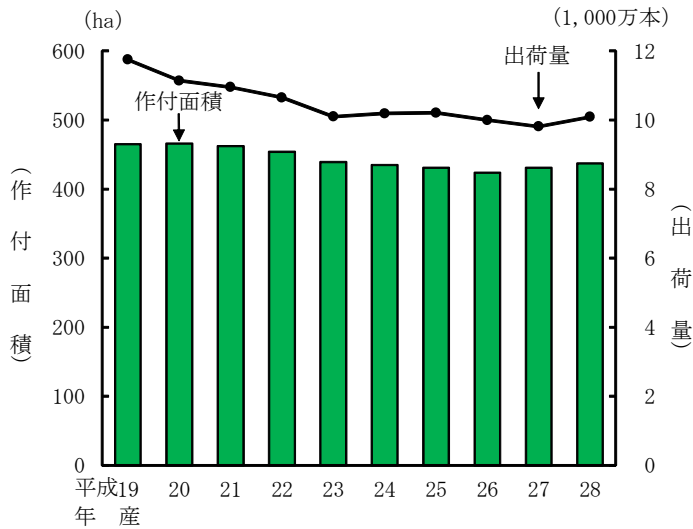
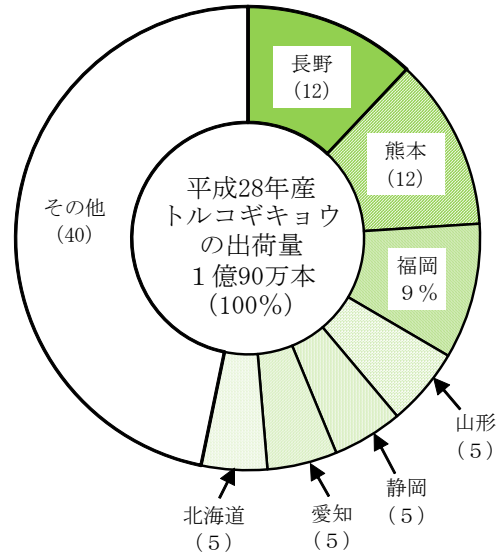


図19 トルコギキョウの都道府県別出荷量割合



ケ ゆり

作付面積は752haで、前年産に比べ17ha（2%）減少した。

出荷量は1億3,850万本で、前年産に比べ120万本（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が21%で最も高く、次いで高知県が12%、新潟県が9%となっている。

図20 ゆりの作付面積及び出荷量の推移

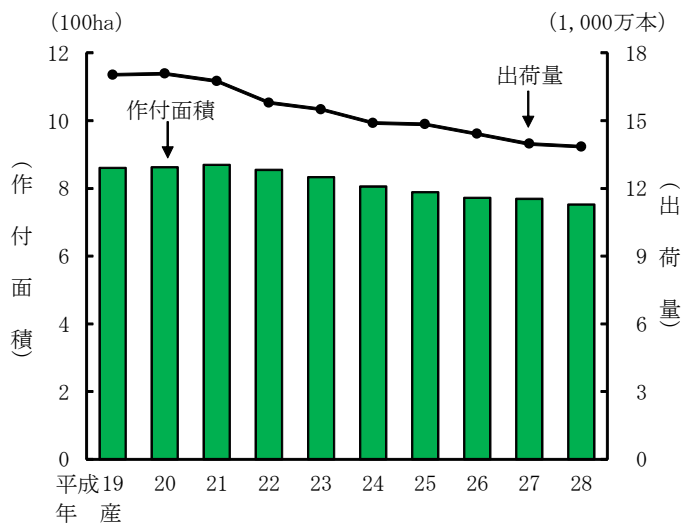
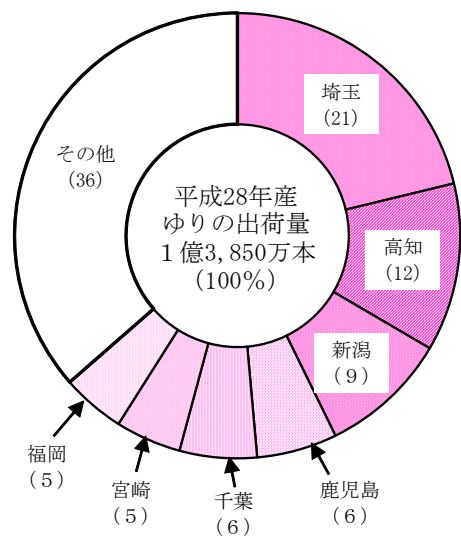


図21 ゆりの都道府県別出荷量割合



コ アルストロメリア

作付面積は81haで、前年産に比べ1ha（1％）減少した。

出荷量は5,520万本で、前年産に比べ270万本（5％）減少した。これは、8月下旬以降の日照不足の影響で生育が抑制されたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、長野県が34％で最も高く、次いで愛知県が18％となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図22 アルストロメリアの作付面積及び出荷量の推移

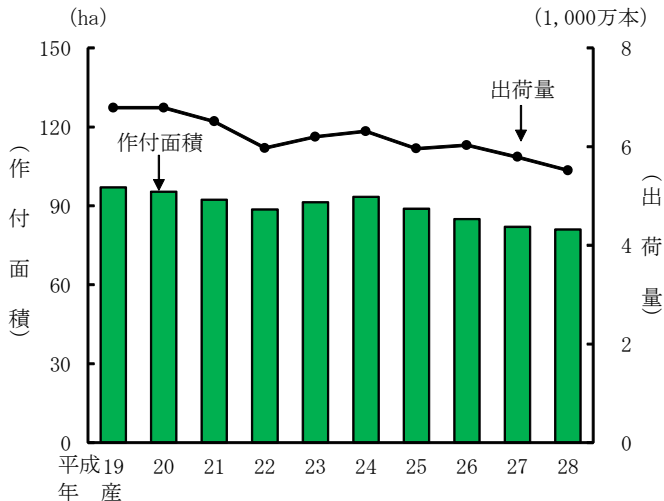
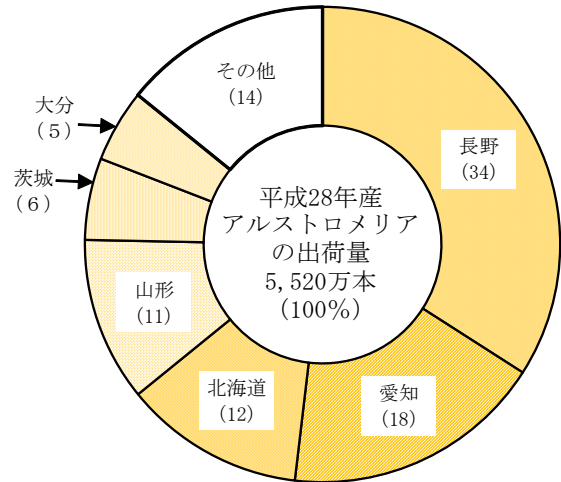


図23 アルストロメリアの都道府県別出荷量割合



サ 切り葉

作付面積は661haで、前年産に比べ26ha（4％）減少した。これは、高齢化により規模が縮小したこと等による。

出荷量は1億3,530万本で、前年産に比べ270万本（2％）増加した。これは、沖縄県において施設栽培が行われたこと等による。

都道府県別出荷量割合は、東京都が34％で最も高く、次いで沖縄県が24％となっており、この2都県で全国の約6割を占めている。

図24 切り葉の作付面積及び出荷量の推移

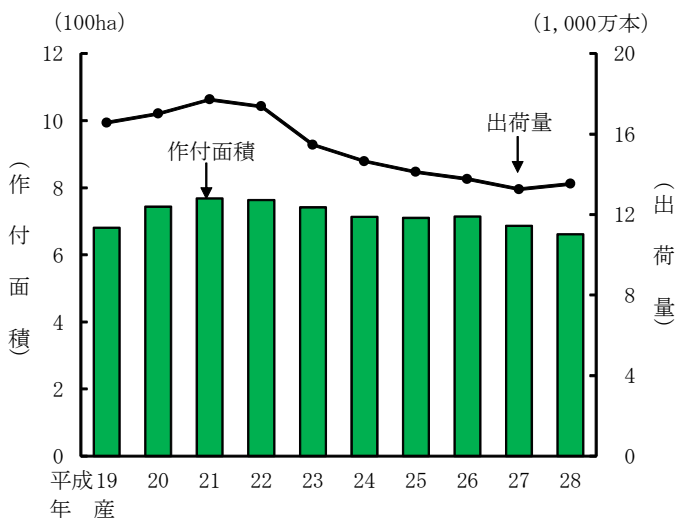
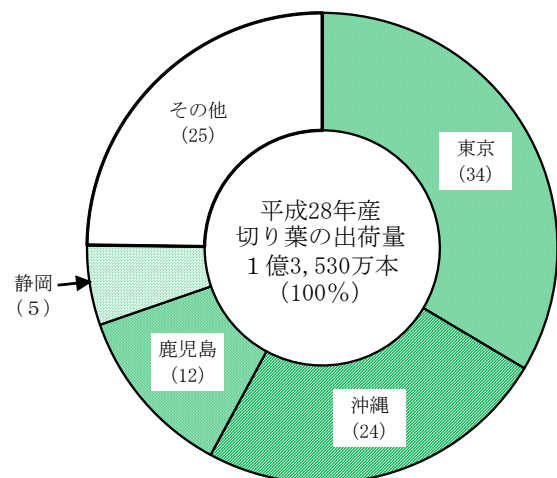


図25 切り葉の都道府県別出荷量割合



シ 切り枝

作付面積は3,631haで、前年産に比べ28ha（1%）減少した。

出荷量は2億730万本で、前年産に比べ440万本（2%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、静岡県が15%で最も高く、次いで茨城県が14%、和歌山県が9%となっている。

図26 切り枝の作付面積及び出荷量の推移

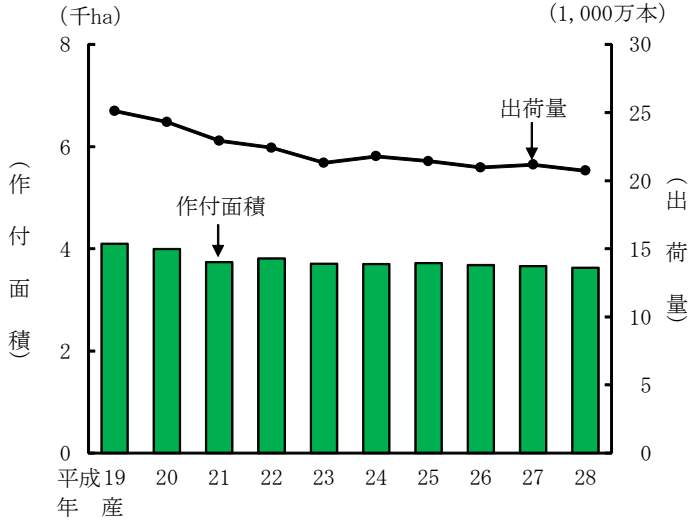
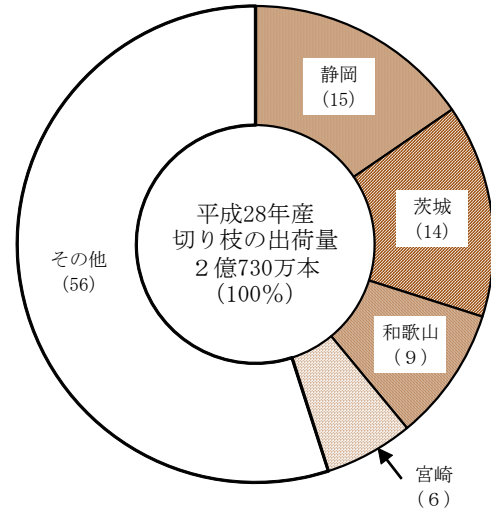


図27 切り枝の都道府県別出荷量割合



(2) 球根類

収穫面積は317haで、前年産に比べ47ha（13%）減少した。これは、高齢化により規模が縮小したこと等による。

出荷量は9,540万球で、前年産に比べ660万球（6%）減少した。これは、天候に恵まれ作柄が良好であったものの、収穫面積が大幅に減少したこと等による。

都道府県別出荷量割合は、鹿児島県が25%で最も高く、次いで新潟県が19%、富山県が17%となっており、この3県で全国の約6割を占めている。

図28 球根類の収穫面積及び出荷量の推移

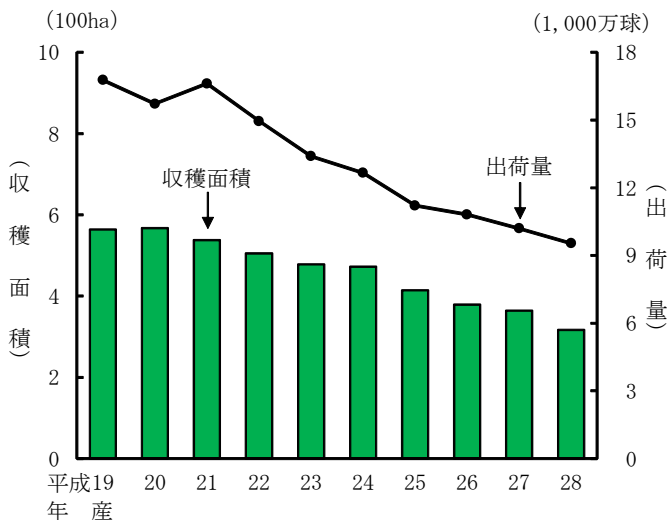


図29 球根類の都道府県別出荷量割合

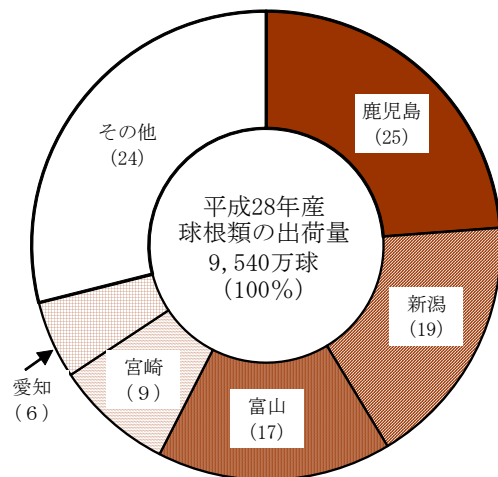


表3 平成28年産球根類の収穫面積及び出荷量（全国）

品 目	収 穫 面 積	出 荷 量	対 前 年 産 比	
			収 穫 面 積	出 荷 量
球 根 類 計	317 ha	9,540 万球	87 %	94 %

(3) 鉢ものの類

収穫面積は1,675haで、前年産に比べ57ha（3%）減少した。

出荷量は2億2,650万鉢で、前年産に比べ310万鉢（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が23%で最も高く、次いで埼玉県が11%、岐阜県が8%となっている。

品目別出荷量割合は、花木類が20%、観葉植物が19%、シクラメンが8%、洋ラン類が7%となっている。

図30 鉢ものの類の収穫面積及び出荷量の推移

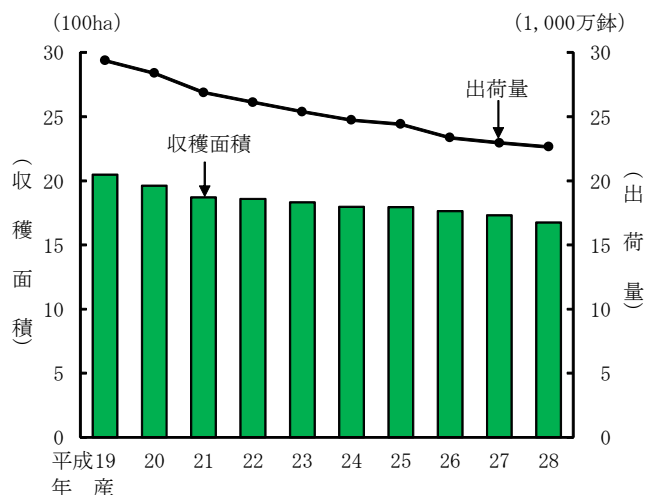


図31 鉢ものの類の都道府県別出荷量割合

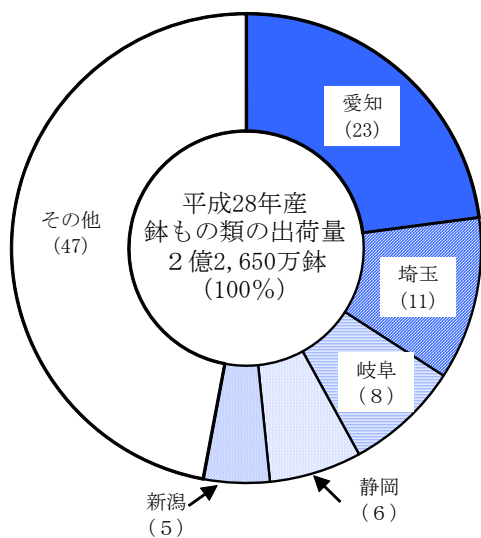


図32 鉢ものの類の品目別出荷量割合

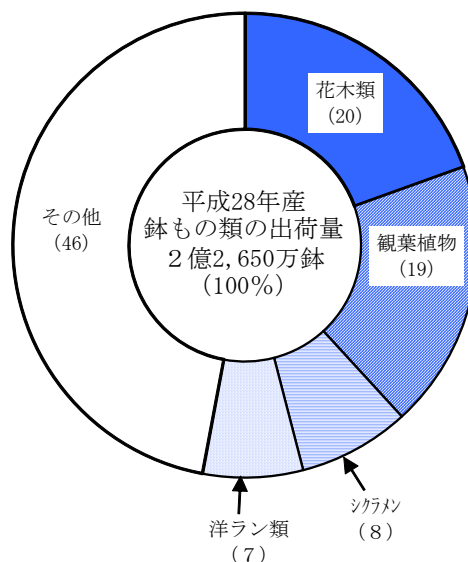


表4 平成28年産鉢ものの類の収穫面積及び出荷量（全国）

品目	収穫面積	出荷量	対前年産比	
			収穫面積	出荷量
	ha	万鉢	%	%
鉢ものの類	1,675	22,650	97	99
うちシクラメン	188	1,760	99	100
洋ラン類	195	1,580	98	99
観葉植物	304	4,230	95	100
花木類	391	4,420	94	96

注：鉢ものの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。

ア シクラメン

収穫面積は188haで、前年産に比べ1 ha（1%）減少した。

出荷量は1,760万鉢で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、長野県が15%で最も高く、次いで愛知県が9%、栃木県が7%となっている。

図33 シクラメンの収穫面積及び出荷量の推移

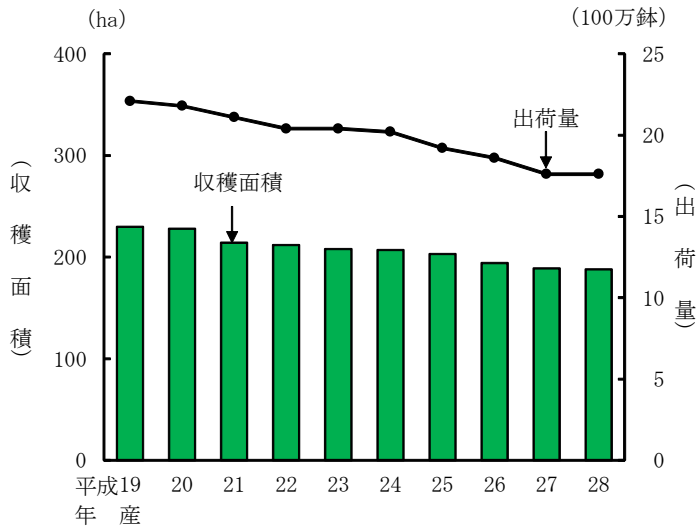
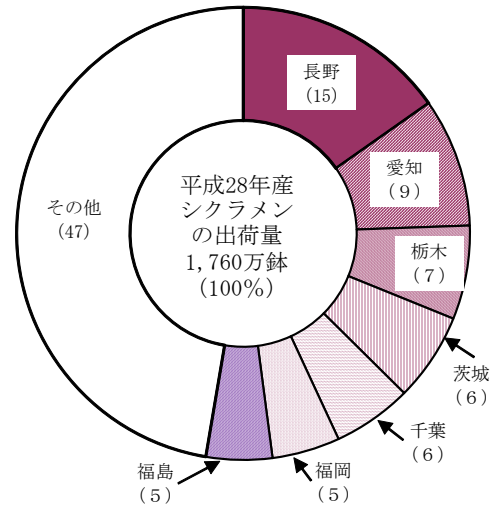


図34 シクラメンの都道府県別出荷量割合



イ 洋ラン類

収穫面積は195haで、前年産に比べ5 ha（2%）減少した。

出荷量は1,580万鉢で、前年産に比べ20万鉢（1%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が23%で最も高く、次いで熊本県が11%、福岡県が8%となっている。

図35 洋ラン類の収穫面積及び出荷量の推移

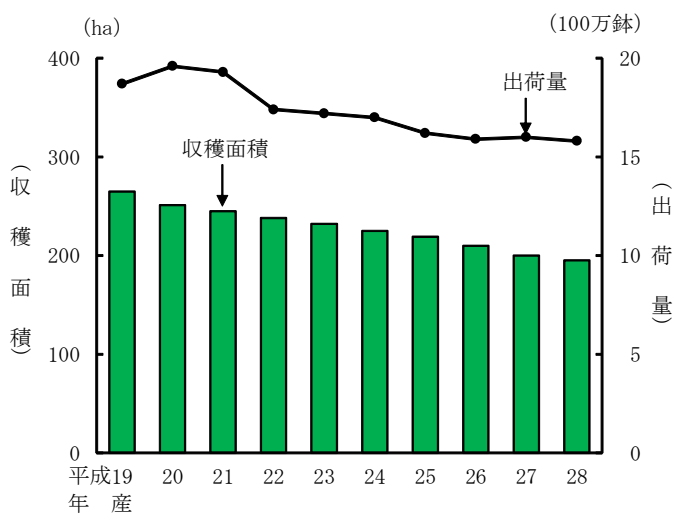
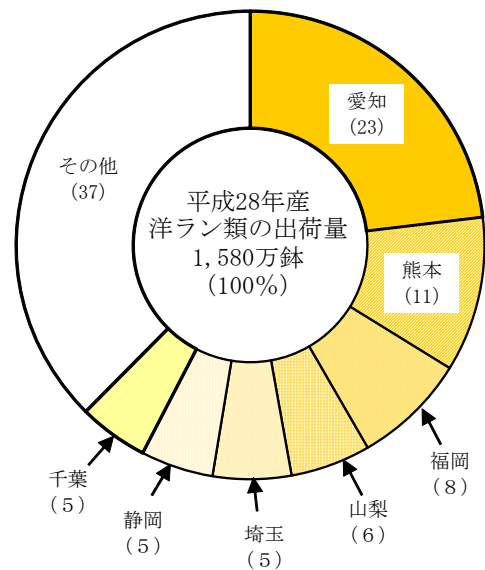


図36 洋ラン類の都道府県別出荷量割合



ウ 観葉植物

収穫面積は304haで、前年産に比べ16ha（5%）減少した。これは、高齢化により規模が縮小したこと等による。

出荷量は4,230万鉢で、前年産並みとなった。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が全国の約5割を占めている。

図37 観葉植物の収穫面積及び出荷量の推移

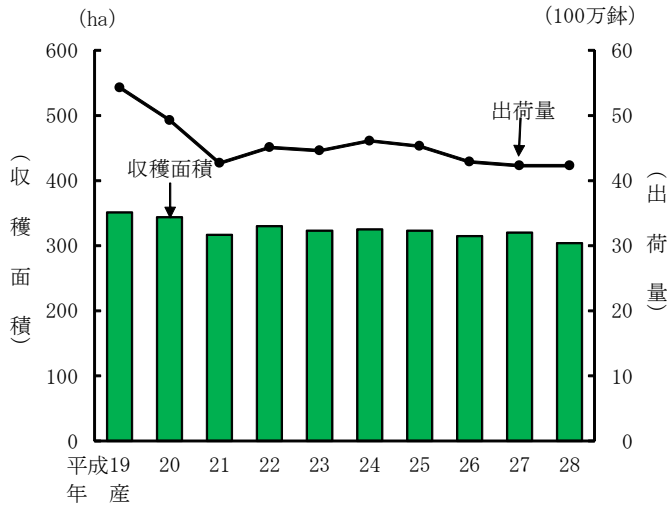
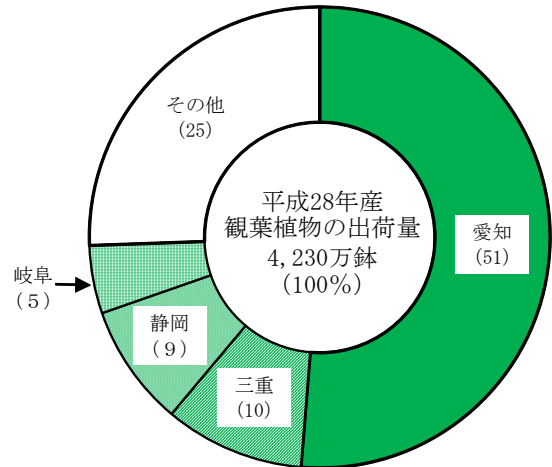


図38 観葉植物の都道府県別出荷量割合



エ 花木類

収穫面積は391haで、前年産に比べ24ha（6%）減少した。これは、高齢化により規模が縮小したこと等による。

出荷量は4,420万鉢で、前年産に比べ180万鉢（4%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、愛知県が28%で最も高く、次いで新潟県が18%となっており、この2県で全国の約5割を占めている。

図39 花木類の収穫面積及び出荷量の推移

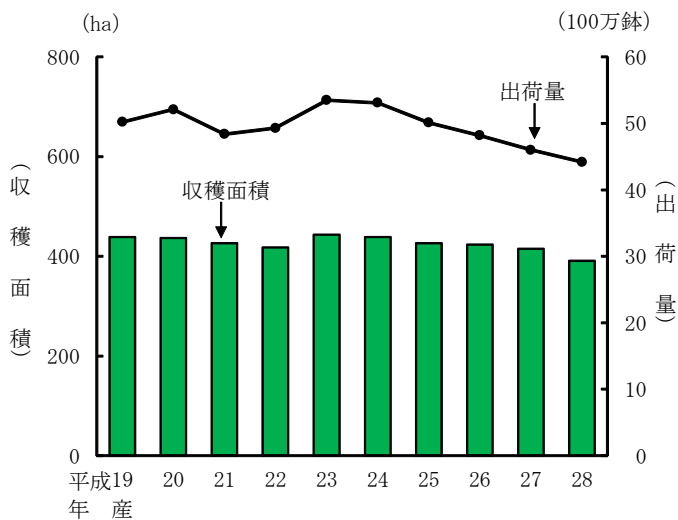
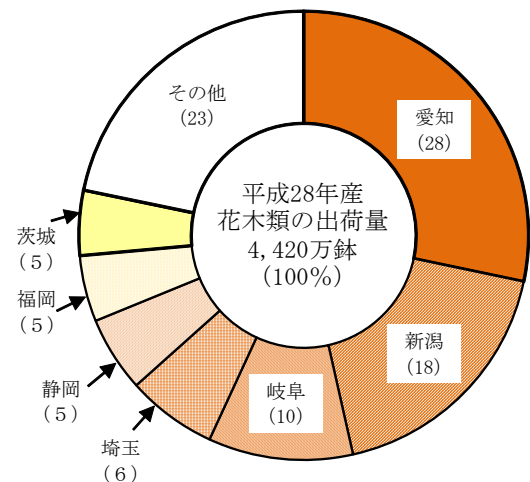


図40 花木類の都道府県別出荷量割合



(4) 花壇用苗もの類

作付面積は1,450haで、前年産に比べ38ha（3%）減少した。

出荷量は6億4,930万本で、前年産に比べ1,670万本（3%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が9%で最も高く、次いで千葉県が8%、愛知県が7%となっている。

図41 花壇用苗もの類作付面積及び出荷量の推移

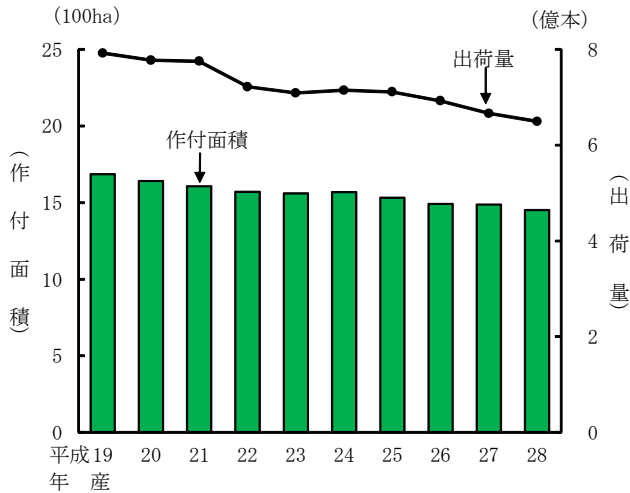
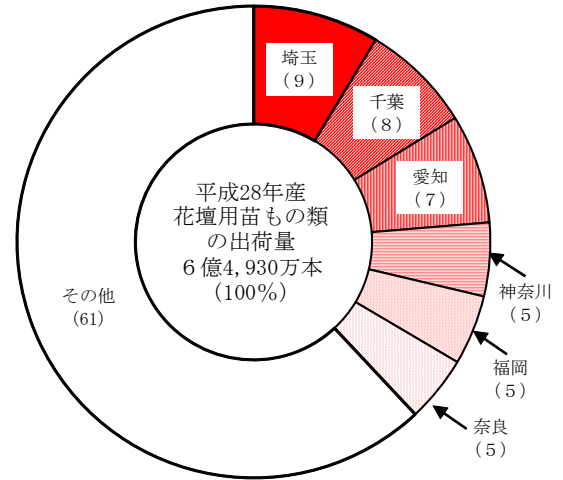


図42 花壇用苗もの類の都道府県別出荷量割合



このうちパンジーの作付面積は275haで、前年産に比べ12ha（4%）減少した。これは、他作物へ転換したこと等による。

出荷量は1億3,460万本で、前年産に比べ410万本（3%）減少した。

都道府県別出荷量割合は、埼玉県が8%で最も高く、次いで神奈川県が7%、奈良県が6%となっている。

図43 パンジーの作付面積及び出荷量の推移

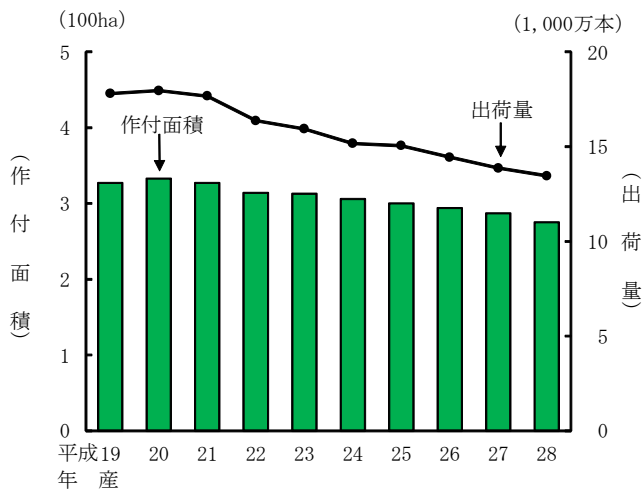


図44 パンジーの都道府県別出荷量割合

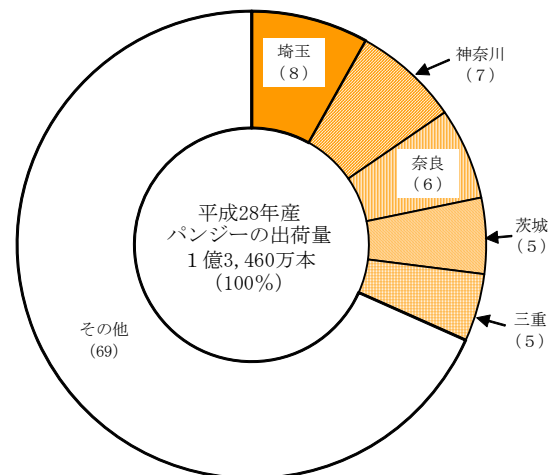


表5 平成28年産花壇用苗もの類の作付面積及び出荷量（全国）

品目	作付面積	出荷量	対前年産比	
			作付面積	出荷量
	ha	万本	%	%
花壇用苗もの類	1,450	64,930	97	97
うちパンジー	275	13,460	96	97

注：花壇用苗もの類の値は、表章されている内訳品目以外の品目を含んだ合計値である。